第 3 回伊勢市上下水道事業審議会　議事録要旨

平成 30 年 10 月 19 日

第３回伊勢市上下水道事業審議会　議事録要旨

日　　時　平成30年10月19日（金）13：30～15：00
場　　所　伊勢市二見生涯学習センター　１階　ホール

委員出席者　木本　凱夫　齋藤　　平　松原智恵蔵　杉山　謙三
髙橋　克彦　岩﨑　良文　奥村　幸恵　杉田　英男
曽根　章江　田岡　光生　大西　　隆　中西好一郎

委員欠席者　竜田　和代

事　務　局

上下水道部長	中村　高弘
上下水道部次長	前村　俊和
上下水道総務課長	成川　　誠
料金課長	酒井　幸久
上水道課長	田端　幸孝
上水道課副参事（建設係長）	濱口　　新
下水道建設課長	松田　　康
下水道施設管理課長	渡邊　　実
上下水道総務課主幹（経理係長）	藤田　文香
料金課主幹（上下水道料金係長）	宮本　幸夫
上水道課主幹（水源係長）	中西　　功
上水道課給水係長	北村　功郎
上水道課維持係長	佐々木　徹
上水道課建設係主事	松本　拓也
上下水道総務課庶務係長	下村　真司
上下水道総務課経理係主事	辻村　貴文
上下水道総務課庶務係	牧　　祐介

議事録署名　杉田　英男　委員　　奥村　幸恵　委員

傍　聴　者　１名

議　　題　（１）　伊勢市水道事業ビジョンについて（継続審議）

審 議 状 況

〇開会挨拶　　上下水道部長

〇司会進行　　事務局

〇議事進行　　木本会長

〇第４号議案　伊勢市水道事業ビジョンについて

上水道課から、第２回審議会の振り返りと追加・訂正項目、第 7 章事業計画について説明。上下水道総務課から、第 7 章財政計画、第 8 章フォローアップについて説明。

以下、伊勢市水道事業ビジョンに対する質疑応答

意委員：パワーポイントの数字が見えにくいため、大きくしてほしい。

意委員：7－5 について、平成 40 年度以降料金収入が格段に減る中で、しっかり議論を進めてほしい。

答事務局：現在は、内部留保資金が約 21 億円あるが、年々減少し、計画以降は不良債務が発生する状況と推測しており、将来の大きな課題として、料金改定を論議・検討しなければならない状況となってくる。

質委員：市の一般会計からの建設改良費の繰り入れは、ルール通り実施されているのか。

答事務局：基準に基づく経費がほとんどである。基準に基づかないものとしては、過去に簡易水道であった区域を上水道に統合するための整備費に対する元利償還金であるが、市の施策であるということで繰り入れが行われている。

意委員：広域連携について、他県では人口 10 万、15 万人規模の市でも広域連携に取り組んでいる市があるので、情報を出しながら進めてほしい。

答事務局：広域連携については、三重県から勉強会開催についての声掛けがある中、必要性は感じているが、まずハードからではなくソフト統合という考え方もあるので、出来るところから情報を交換しながら進めていきたい。また、この意見は重く受け止めたい。

情報発信についても進めていく必要性を感じており、2週間ほど前にはなるが、「伊勢まつり」、「環境フェア」へ出展し、来場いただいた方にアンケートを実施するなど努めているが、今後も努力していきたい。

質委員：8－1で「お客様」との表現が出てくるが、これは市民を指すのか、または水道利用者を指すのか。
答事務局：「お客様」は、水道利用者との意味を込めて表記しているが、この表現についても議論していただければと思う。
意委員：この言葉は他でも使用されており、どこに基盤を置いて作っていくのかを考えると、水道利用者の表現が良いのではないか。
答事務局：水道事業は、水道料金をいただいて運営しているので、統一した表現として「水道利用者」を使用することとしたい。

質委員：7－3の財政収支計画において給水戸数が上昇し続けることの理由はなにか。
答事務局：これまでの実績を基に推測している。世帯人口が減る中、世帯数は増えているというのがこれまでの流れであるため、給水戸数が上昇する予測をしている。

質委員：7－1の図において、建設費の費用算定の方法については、現在の費用算定で算出しているのか。あるいは、将来費用が上がる部分も見込んだ方法で算出しているのかどちらなのか。
答事務局：更新費用については、年々工事費が上がることを示すデフレーターに基づき計算している。
質委員：将来の費用上昇分を見込んだ方法で費用算出をしているということだが、収支は大丈夫なのか。
答事務局：収支については、計画期間は大丈夫である。しかし、計画以降は非常に厳しいものになるという予測をしている。

質委員：4－13の図は給水原価と内部留保資金、企業債残高の推移を示したい図であるため、図の縦軸は給水原価のみではないとおかしいのではないか。
答事務局：4－13の図の縦軸に記載のある供給単価は、図内部にも記載していることから、縦軸の供給単価の記載は削除し、供給原価のみ記載することとしたい。

意委員:4－13 下段の図の現行供給単価に㎥の単位が抜けているので修正してほしい。
答事務局：現行供給単価に㎥の単位を追加する。

意委員：6－7 について前期の年平均投資額が 1,402 百万円は誤解を招く表現であるため、前期をさらに半分に分けて併記するか、または、表に注釈をつけてほしい。
答事務局：6－7 について、図の下に注釈をつけて説明する形で修正したい。

質委員：7－4 について、表に前期、後期の言葉が使われているが、6 章でも同じ言葉が使われるので、言葉を変えたほうが分かりやすいのではないか。
答事務局：7－4 及び 5 の表では、前期、後期の言葉と分けずに、「計画期間」と表記したい。

質委員：1－1 の下から 5 行目「その目標年度を迎えることから」は、平成 30 年度を迎えている状況からは適さない表現ではないか。
答事務局：平成 30 年度は既に迎えているので表現を変えたい。

意委員：1－2 の伊勢市の計画の並びが、年度別になっておらず分かりにくい。
答事務局：上位計画とその他の計画の並びを整理して修正したい。

質委員：2－1 の文中に「古来より」「古くから」が同時に入っており表現を変えたほうがよいのではないか。
答事務局：表現を訂正したい。

質委員：7－5 の図にある収入の企業債、支出の企業債償還金、企業債残高の見方を教えてほしい。
答事務局：企業債は借り入れたお金であり、企業債償還金は企業債を返済していくためのお金である。企業債残高は返済していかなければならない金額である。この計画では、企業債残高は毎年上昇していくことを予想している。

意委員：3－28について、市が保有する給水車が3台であるが、南海トラフ地震等の災害に対して、これである程度の市内を給水できるのか。

答事務局：応急給水用資機材は伊勢市水道事業が所有しているものを記載しており、南海トラフ地震等の災害が発生した際はこれだけでは足りない。日本水道協会や三重県水道災害広域応援協定に基づき、各地より応援を要請し対応していく予定である。

質委員：他市町と連携する話は無いのか。

答事務局：3－27に「水道に関する災害時協定」のとおり、三重県・市町・水道供給事業者等と協定を締結しており、緊急時には協定に基づき応援要請をかけて対応していく。

6月に断水した際も、三重県水道災害広域応援協定に基づき応援要請を行い、県内6事業体から7台の給水車応援をしていただき対応しているところである。

質委員：7－4の人件費の支出について、一定であるがその考えを聞きたい。

答事務局：人件費は、現状の職員数41名で変わらず10年経過することを前提として、人件費を見込んだものである。

人件費について、合併直後の平成18年度と比較して人件費、職員数ともに削減し、18年度比で80%台まで落ちてきている。将来の更新需要の増大や現場での対応等を勘案して、計画では現状維持で記載しているが、引き続き固定費の削減に努めていきたい。

質委員：職員の異動が難しい状況であり、職員数が変わらないのであれば毎年人件費は上昇するのではないか。

答事務局：職員の年齢層が上がっており、今年も2名の退職を予定している中で、その退職者の枠に若い職員を配置した場合は、平均の人件費が低下することもあるので、現状の平均単価で計算している。

質委員：4－13の表は、供給単価160円を今後維持した場合のシミュレーションをしたとの理解でよいか。

答事務局：今後整備費が上がっていく中で企業債の借入が0%、50%、100%とした際に、現行の供給単価との差はどのようになるかをシミュレーションしたものであり、今後160円を維持していくということではないので、表の中の供給単価が参考値であることが分かるよう記載する。

〇その他

・事務局より今後のスケジュールを提示。

上記のとおり会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成30年10月19日

議　　長　　印

署　名　委　員　　印

署　名　委　員　　印